

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

忠岡町教育委員会

令和6年度 全国学力・学習状況調査 忠岡町結果概要公表について

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

- 小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、支援学校小学部第6学年
〈大阪府（公立）実施校数・児童数 972校・69,338人〉
- 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、支援学校中学部第3学年
〈大阪府（公立）実施校数・生徒数 468校・65,582人〉

(3) 調査内容

- ①教科に関する調査 ・小学校等 【国語・算数】 ・中学校等 【国語・数学】
- ②質問紙調査 ・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

(4) 実施日

令和6年4月18日（木）

(5) 今年度調査の特徴

※教科に関する調査は、国語、算数、数学を実施。

※児童生徒質問紙調査は、原則全ての児童生徒を対象に、オンライン方式により実施。

※紙面で実施する調査の後日実施は、4月19日（金）から4月30日（火）まで可能。

(6) 調査を実施した忠岡町の学校数・児童生徒数

- | | | | |
|-------|---------|--------|-----------|
| ○実施校数 | ・小学校：2校 | ○児童生徒数 | ・小学校：124人 |
| | ・中学校：1校 | | ・中学校：118人 |

公表に関する配慮事項について

令和6年度全国学力・学習状況調査実施要領に基づき、次の点に配慮し公表する。

- 忠岡町教育委員会は、保護者や地域の住民に対し、町内における教育及び教育施策に関する説明責任を果たす観点から、調査結果を公表する。
- 本調査の目的及び調査結果が学力や学習状況、生活状況の特定の一部である。
- 学校ごとの児童生徒の学力の結果が明らかになる公表は行わない。
- 本町は、公立中学校が1校であるため、町教育委員会において公表することが、学校単位の公表となるため、中学校の学力の結果は非公表とする。
- 本町の特徴的な課題と改善方策を公表する。

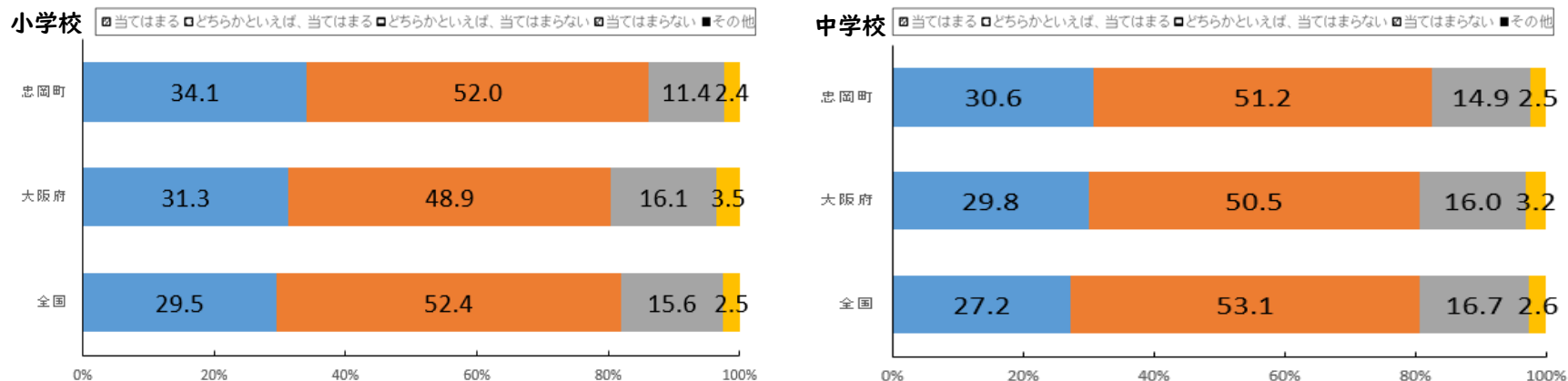
全体の概要についてⅠ（学力に関する調査より）

- 【小学校国語】言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項の問題については、概ねできている。
記述式問題の、複数のグラフや資料から読み取った情報を基に、解答の条件に沿って自分の考えを書くことや条件に沿ってまとめて書くことに課題。
- 【小学校算数】直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題について、正答率が全国・大阪府よりも高くなっている。
速さの意味や時間・道のりとの関係の理解、球の直径の長さとは立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を導き出すことに課題。
- 【中学校国語】我が国の言語文化に関する事項の問題について、正答率が全国・大阪府よりも高くなっている。
記述式問題の、目的に応じて必要な情報に着目して要約することについて成果が見られるが、話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することに課題。
- 【中学校数学】「知識・技能」の観点の問題（問題形式：選択式・短答式）については、概ねできている。
「思考・判断・表現」の観点の問題（問題形式：記述式）、特に、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること、問題解決の方法を数学的に説明することに課題。

全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より） ～忠岡町令和6年度の重点取り組みにかかる概要～

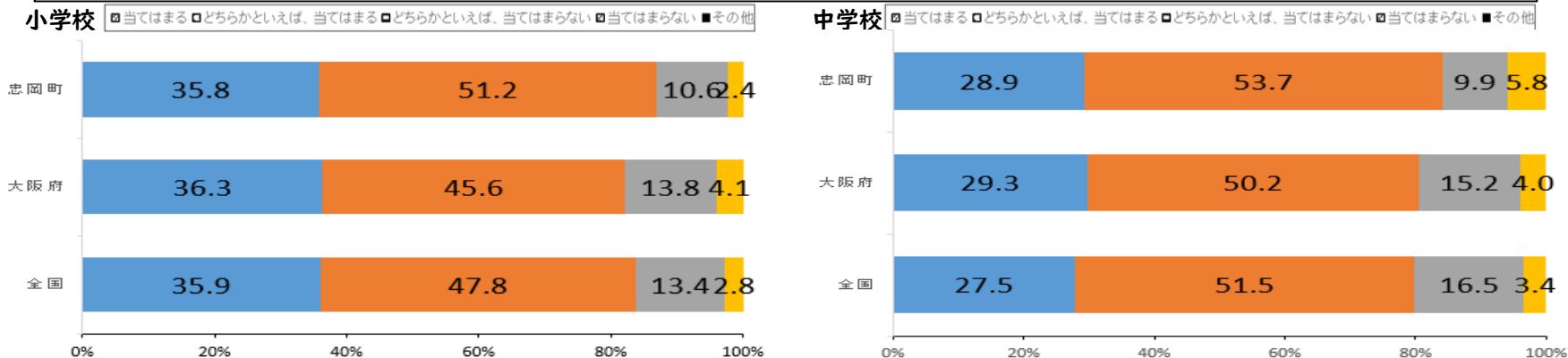
①【自ら考え取り組む子を育てる】「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は、小学校・中学校ともに全国・大阪府に比べて高く、改善傾向と言える。



②【自ら考え取り組む子を育てる】「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができるといいますか」

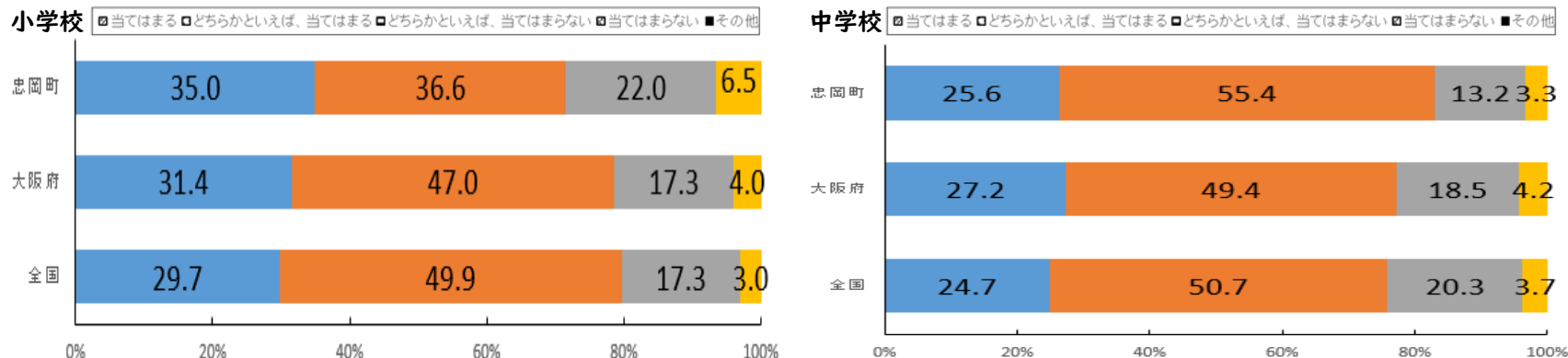
肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は、小学校・中学校ともに全国・大阪府と比べると同等、もしくは高く、改善傾向と言える。



全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より） ～忠岡町令和6年度の重点取り組みにかかる概要～

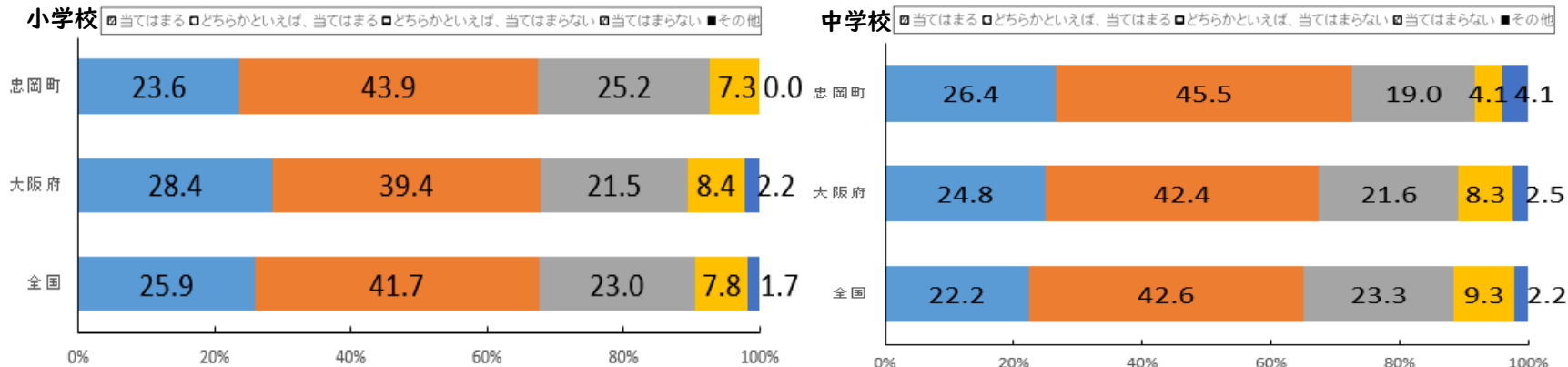
③【授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす】「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」

肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合の合計は、小学校において全国・大阪府と比べると低く課題である。中学校においては、肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が同等、もしくは高く、改善傾向と言える。



④【授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす】「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

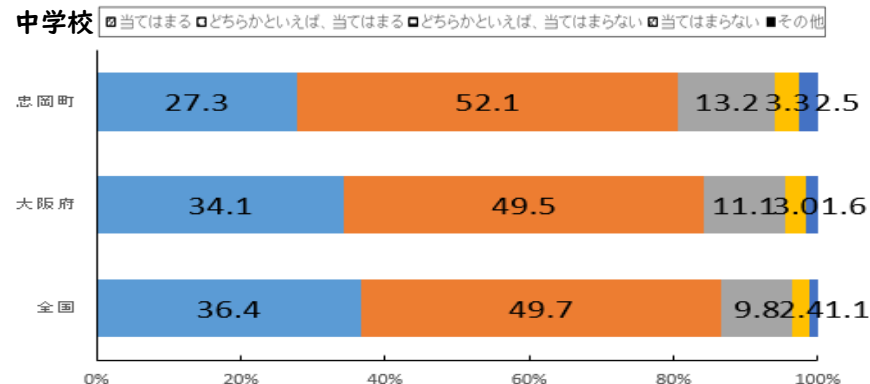
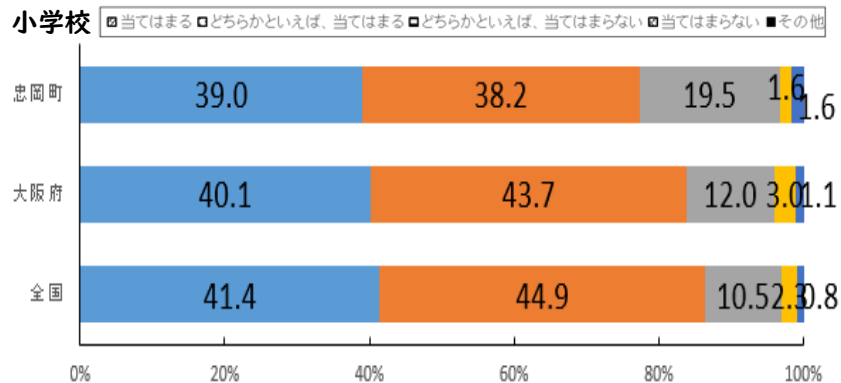
肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合の合計は、小学校において全国・大阪府と比べて大きな差はないが、中学校においては、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が高く、改善傾向と言える。



全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より） ～忠岡町令和6年度の重点取り組みにかかる概要～

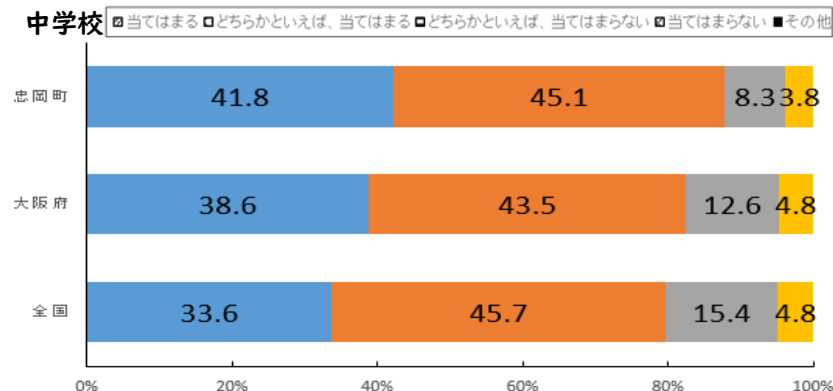
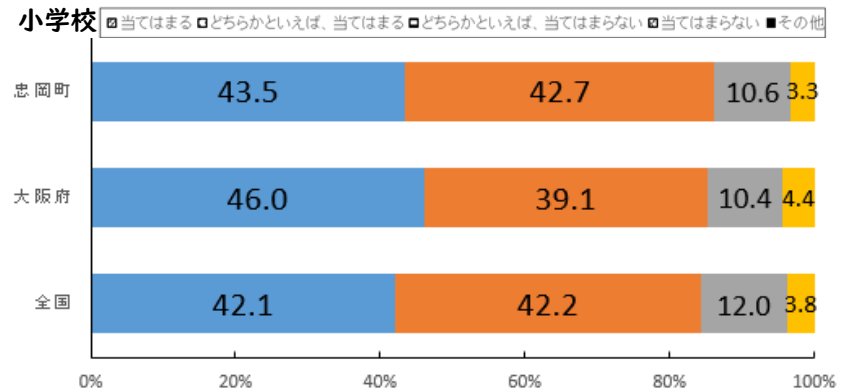
⑤【授業で自分の考えをまとめ説明や発表ができる子どもをふやす】「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は、小学校において全国・大阪府と比べると低く、課題である。中学校においては、「当てはまる」の割合が低く、課題である。



⑥【授業内容がわかる子どもをふやす】「国語・算数（数学）の授業の内容はよくわかりますか」・・・国語・算数（数学）の合算データ

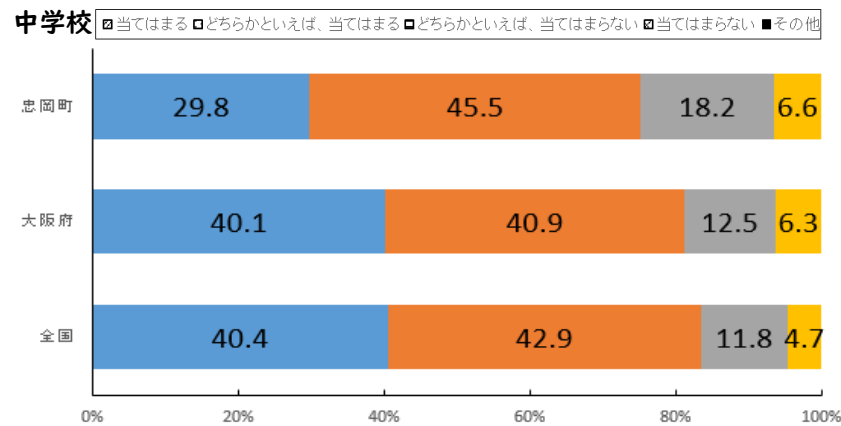
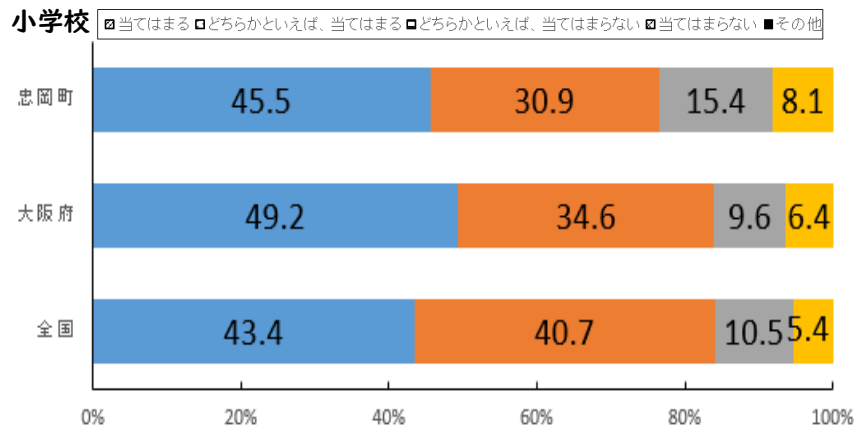
肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は、小学校において全国・大阪府と比べて同等、もしくは高くなっており、改善傾向と言える。中学校においては、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が高く、改善傾向と言える。



全体の概要についてⅡ（学習状況に関する調査より） ～忠岡町令和6年度の重点取り組みにかかる概要～

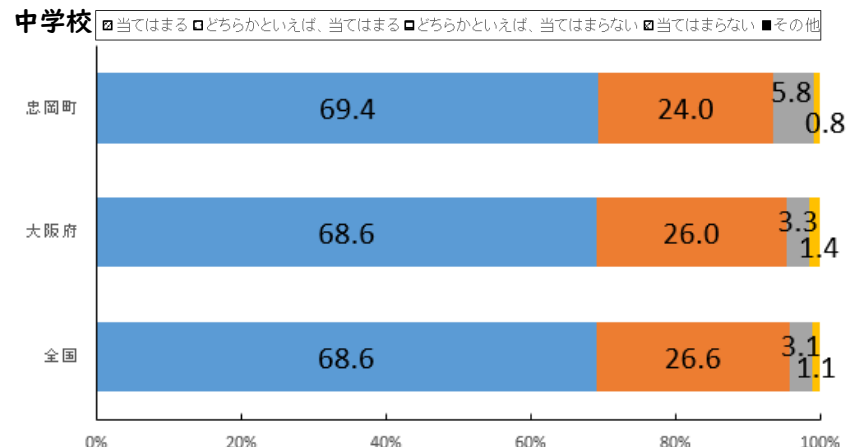
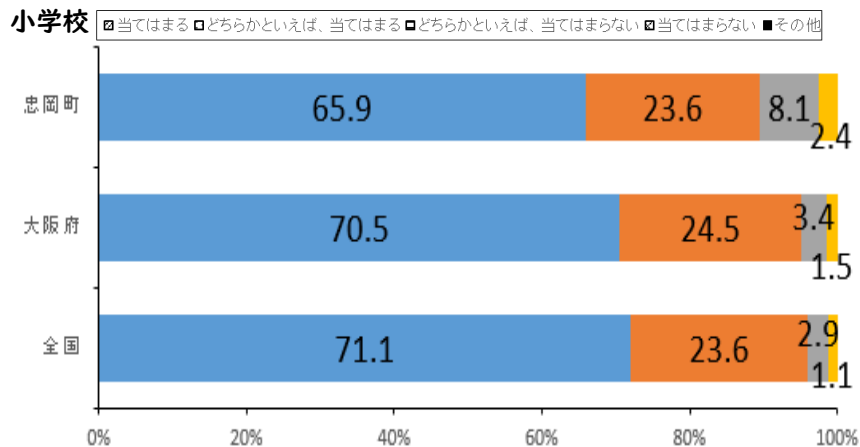
⑦【自分にはよいところがあると思う子どもたちを育てる】「自分には、よいところがあると思いますか」

肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が、小学校において、全国・大阪府と比べて同等、もしくは低く、課題である。中学校においては、肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合が低く、課題である。



⑧【人の役に立つ人間になりたいと思う子どもたちを育てる】「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

肯定的評価「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は、小学校においては、全国・大阪府と比べて低く、課題である。中学校においては、肯定的評価がやや低く、課題である。



忠岡町における学力・学習状況に関する施策

- 忠岡町授業改善推進事業（全小・中学校）・・・小・中学校における教育内容の充実と指導方法の工夫改善を図っています。
- 学ぶ楽しさを育む推進事業（小１・２）・・・小学校１・２年生児童に落ち着いた学習環境の提供と基礎的・基本的な内容の確実な定着を図っています。
- 忠岡町きめ細やかな指導のための講師配置事業（全小学校）・・・支援学級在籍児童を含めた１学級の合計児童数が法律に定める基準を超える場合、非常勤講師を配置して、少人数学級編制を実施しています。
- 学力向上サポーター配置事業（小３・４）・・・基礎・基本の定着を図り、「確かな学力」を育むためのきめ細やかな学習支援を行っています。
- 小学校読書活動推進事業（全小学校）・・・小学校に司書を配置し子どもたちの興味関心を高め、本に接する機会を増やしています。
- 学力検査CRT（小３・４）・・・児童の基礎・基本における学習のつまずきの把握と効果的な指導につなげています。
- 小・中学校児童生徒学校生活意識調査〈Hyper-QU〉（小５・中２）・・・よりよい学級集団づくりに向けた課題を把握することにつなげています。
- 授業力向上支援・・・教員の授業力向上に向けた授業観察、及び指導・助言を行っています。
- 授業力向上のための教員研修・・・教科・領域・校種の枠をこえた授業改善と校内研修を活性化につなげています。
- 忠岡町授業改善に向けての連絡会・・・学力にかかわる情報共有と各校における学力向上を推進しています。
- 小・中学校生徒指導連携会議・・・小・中学校の９年間を見通した取組の共有と連携を推進しています。
- 忠岡町英語教育推進事業・・・外部講師による町立小学校２年生の希望者を対象としたイングリッシュレッスンの提供等を行っています。

忠岡町立忠岡小学校

小学校 国語 「たてわり遊び」の良さを書く。 『書くこと』

考えられる**成果**

- 漢字の書き取り能力
- 文章中で漢字を使う習慣

正答率 60.3 %
無解答率 6.45 %
(2問平均値)

全国正答率と同じ

これからの指導の方向性

☆漢字テストのためだけでなく、普段から、学習した漢字は必ず使うように指導し、未習の漢字についても興味を持ったものなどは積極的に使わせるように指導する。

成果が見られる設問

1 ②高山さんは、高山さんの文章【を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた部ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の部ア、イを漢字でいねいに書きましよう。

ア きょうごの作戦を考えたりします。

上級生が遠くからボールをイ上げる

小学校 国語 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして書く。『読むこと』

考えられる課題

- 条件をしっかりと読んでいない。
- 自分の考えの理由を考える力。

正答率 35.9 %
無解答率 28.2 %

条件付きの記述問題で正答率が全国に対する割合も一番低い。無解答率もとても高い。

これからの指導の方向性

- ☆条件付きの文章を書き、条件に合っているかなどの推敲をしっかりとさせる活動を行う。
- ☆字数や、文(句点)の数を指定して要約したり、感想を書いたりする活動を取り入れる。

課題が見られる設問

3
三

原さんは、島さんと話し合ったあと、物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめています。あなたなら、物語を読んで、心に残ったところとその理由をどのようにまとめますか。

条件 次の条件に合わせて書きましょう。

○心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。

○物語から言葉や文を取り上げて書くこと。

○※六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

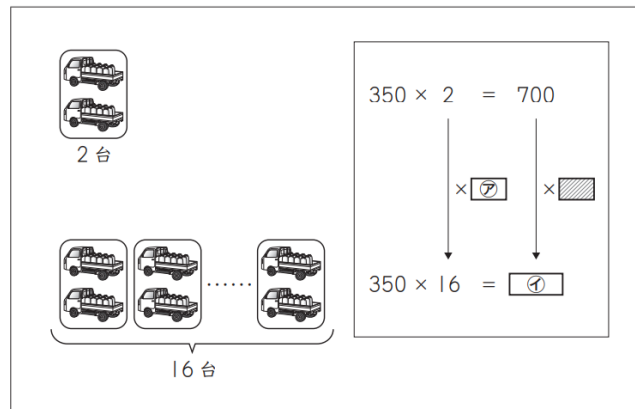
小学校 算数 $350 \times 2 = 700$ であることを基に、
 350×16 の積の求め方と答えを書く

成果が見られる設問

2(1)

上の㊦に入る数に着目すると、
 350×16 の積㊩は、どのように
求めることができますか。

㊦に入る数に着目したときの㊩の
求め方を、式や言葉を使って
書きましょう。そのとき、
㊦に入る数をどのように
求めたのかがわかるように
しましょう。また、
㊩に入る数も書きましょう。



考えられる成果

●「式や言葉を使って」と
指定された時、算数の記
述で何が大切なのかを理
解することができている。

正答率 64.1%

無解答率 5.1%

★正答率が大阪府平均より高い
(全国56.9% 大阪56.1%)

これからの指導の方向性

算数の学習で、ただ、「式と答え」をかくのではなく、「式や言葉」を使って、ペア・グループ・全体に説明をする授業を増やしていく。

小学校 算数 示された桜の開花予想日の求め方を基に、 開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く

課題が見られる設問

5(4) 桜の開花予想日の求め方の①のように計算すると、3月15日までの最高気温の数値をたした答えは549でした。3月16日からの最高気温の予報は、下の表のとおりです。

3月16日から3月19日までの最高気温の予報

日にち	3月16日	3月17日	3月18日	3月19日
最高気温(度)	21	20	15	14

こうたさんは、3月16日以降は予報どおりの最高気温になるとして、桜の開花予想日の求め方を使って、桜の開花予想日を求めました。桜の開花予想日について、次のようにまとめることができます。

最高気温の数値をたしていった答えが、初めて600以上になる式は、だから、
桜の開花予想日は3月日です。

上の㊸に入る式を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の㊸に入る数を書きましょう。

考えられる課題

●複数の資料から必要な情報を読み取ったり、選び出して活用する力が足りない。

正答率 30.8%
無解答率 12.8%

★全国に対する正答率の割合が一番低い
(対全国 62%)

これからの指導の方向性

単元の終わりなどに、活用問題に取り組む。その中でも複数の資料や情報から必要なものを選び出して解決する問題に取り組む。

児童アンケート

課題が見られる設問

(21) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)

考えられる課題

● 家庭で学習する習慣がない児童が多い。

30分より少ないが
40%(全国18.3%)

これからの指導の方向性

家庭学習・自主学習をすすめ、学習はしなければならないものではなく、自らすすんでするものであるという意識を高めていく。

児童アンケート

課題が見られる設問

(29) 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

考えられる課題

●発表する児童が限られている。

どちらかというと発表していなかったが

27.5%

これからの指導の方向性

自分の考えを発表する機会においてできるだけ多くの児童が発言する機会をもてるように意識するとともに、発表の仕方についても学ばせ、授業中意欲的に発表できるように取り組む。

児童アンケート

課題が見られる設問

(33) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

考えられる課題

●話し合う活動が少し少ない

どちらかというとは
まらないが

17.5%

これからの指導の方向性

全教科で、話し合う活動を増やすとともに、話し合いが深まるような取り組みを進める。

児童アンケート

成果が見られる設問

(54) 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。

考えられる成果

● 算数に対しての意識が高い
(他の算数に関する質問も肯定的意見が多い。)

肯定的回答が
90%

これからの指導の方向性

中学年から、少人数習熟度別学習を取り入れているので、自分にあった進み方や学習方法で取り組むことができている結果だと考えられる。今後も少人数習熟度別学習の充実に取り組む。

児童アンケート

成果が見られる設問

(28－5)5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる

考えられる成果

●タブレット端末を活用して自分の意見を伝える能力がついている。

肯定的回答が
87.5%

これからの指導の方向性

タブレット端末を活用する場面を増やし、いろんな方法で自分の意見を伝えることができるような手段を身に付けさせていく。

ただ、タブレット端末に頼りすぎることなく、自分の言葉でも表現できるようにバランスも配慮しながら授業を組み立てていく。

忠岡町立東忠岡小学校

小学校 国語 2二 【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】をもとにして書く。

考えられる課題

●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く力。

正答率	44.7%
無解答率	15.3%

正答率が低く、無解答率も全国の4.9%に比べて3倍以上になっている。

これからの指導の方向性

☆「自分の考えを書く」ことからのステップアップが必要。ただ感想や意見を書くのではなく、要約したり、事実に基づいて自分の意見を書いたりして、文章を書くことに目的を持たせて書く活動をする。

☆思考ツールなどを活用し、論理立てて文を構築する力をつけていく。

課題が見られる設問

2二 高山さんは、次の【高山さんの文章】の
[]に、【高山さんの取材メモ】をもとにして考えた「たてわり遊び」のよさを書くようにしています。あなたが高山さんなら、[]に入る内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

小学校 国語 一二(1)オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する。

考えられる成果

●話し言葉と書き言葉の違いに気づくこと。

正答率	71.8%
無解答率	0%

正答率が全国レベルに到っている

これからの指導の方向性

☆友達の文章を読み合い、付箋などを活用して文章のよさや改善点を交流する場を多く設定する。

☆文章を書かせた後、「この言葉は大切だね」「接続語をうまく使えているね」等、評価や改善点を児童に的確に伝え、次の表現活動にどう生かしていくか見通しを持たせる。

☆話し方でも、相手に伝わる文の組み立てを意識させる。(結論→根拠など)

成果が見られる設問

1 一二(1) 和田さんは、村木さんの発言④を受けて、発言③の話し方を発言⑤のように変えました。和田さんが話し方を変えた理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選んで、その番号をかきましょう。

小学校 算数 4(4) 家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く。

課題が見られる設問

4(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通して図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。
家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。家から図書館までの自転車の速さは分速何mですか。答えを書きましょう。

考えられる課題

●速さの意味について理解していること

正答率	40.0%
無解答率	15.3%

★正答率が低い。
(全国 54.1% 大阪 53.0%)
無解答率が高い。
(全国 4.6% 大阪 4.3%)

これからの指導の方向性

☆日常の具体的な場面に対応させながら、速さなど単位量当たりの大きさについて理解できるようにしていく。

☆公式を覚えて答えを出すことだけでなく、絵や図に表すなどして、速さの意味を考え理解することが必要。

児童アンケート

課題が見られる設問

(21) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)

考えられる課題

●家庭学習の習慣が定着していない。スマホなどの使い過ぎ。

30分より少ないが21.7%
全くしないが14.5%
全国 13.0%、5.3%を大きく上回っている。

これからの指導の方向性

- ・「全くしない」と回答した児童が14.5%見られたので、引き続き児童への学習支援を続ける。
- ・本校で継続して取り組んでいる「家庭学習チャレンジ週間」「家庭学習の手引き」の取り組みを持続させ、児童への指導、保護者への啓発を進め、主体的・計画的に学習する習慣づけを進めていく。
- ・児童が興味をもって主体的に取り組めるような課題を設定したり、学習面に課題のある子も取り組めるような基礎基本の内容を課題にしたりして、家庭でも学習するという習慣につなげていきたい。

児童アンケート

成果が見られる設問

(29)5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

「発表していた」「どちらかという
発表していた」を合わせて 68.7%
大阪府 67.8%全国 67.6%

考えられる成果

●「根拠を持って自分の考えを表現できる力」をつけることを目標として取り組んでいることで、自分の考えを持って発表する機会などが多くなった。

これからの指導の方向性

- ・本校が取り組んでいる「根拠を持って自分の考えを表現できる力」をつけるためにはどのような授業や取り組みをしていくかを研究授業などを通して、教員一人一人が考え学年や学校全体で共有していく。
- ・授業での話し合う活動において、取り組む過程や姿勢を大切に評価していくことで、積極的に話し合い活動に参加し、自らの考えを深めたり、広げたりしようとする意欲を高めていく。
- ・「ビブリオバトル」「はがき新聞」など新しい取り組みを、低学年からおこなうことで「自分の考えを表現できる力」をつけていきたい。

児童アンケート

課題が見られる設問

(33) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

考えられる課題

●話し合いに対して苦手意識を持つ児童や消極的な児童が多い。

「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」を合わせて、75.9% 全国86.3%

これからの指導の方向性

- ・話し合いのルールを低学年から学び、スキルを身につけながら、話し合い活動を多く持ち、自分の意見を出すことに積極性を持たせる。
- ・ペア、グループ、クラス全体など様々な形での話し合い、また、国語や算数に加えて、体育や音楽など様々な教科においても話し合う活動を取り入れていく。
- ・ビブリオバトルなど取り組みやすい話し合いを通して苦手意識をなくしていく。
- ・今年度からの取り組みの「スマイルミーティング」を活用し、互いに認め合い、協力していく学級づくりをもとに、安心して自分の意見を発表できる場を作る。
- ・話し合い後に、自分の考えの深まりや新たな気づきを実感できるような振り返りの時間を設定する。

児童アンケート

成果が見られる設問

(9) 自分には、よいところがあると思いますか。

考えられる成果

●縦割り活動などを通して、自己肯定感が高くなった。

「当てはまる」が53.0%（全国43.4%）

「どちらかといえばあてはまる」が31.3%（全国40.7%）

合わせて84.3%（全国84.1%）

これからの指導の方向性

- ・縦割り活動「レインボータイム」の取り組みを通して、成功体験や自分の役割意識を感じられる場を増やし、自己有用感を高める。
- ・毎日の授業の中でも、児童が自己肯定感を高められるような活動に取り組み、教室の中が安心できる場になるようにしていく。
- ・児童の自己肯定感を高めていくために、児童の存在自体を「ほめる」ことで、失敗よりも成功に向けて前向きに取り組める子、自らの課題に敢然と立ち向かえる子の育成を目指す。
- ・今年度からの取り組みの「スマイルミーティング」を活用し、互いに認め合い、協力していく学級づくりを目指し、その中で児童一人一人の自己肯定感を高めていく。
- ・「東小スタンダード（望ましい行動様式）」を活用し、全教職員が同じ指標でできたことを評価していく。

児童アンケート

成果が見られる設問

(14) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」
を合わせて 本校81.9% 全国 67.9%

考えられる**成果**

●縦割り活動を通して、学年を超えて教職員が子どもと関わる機会が増えた。

これからの指導の方向性

- ・引き続き、毎日の縦割り活動「レインボーそうじ」の取り組みを通して、多くの教職員が全学年の児童と関わっていく中で、児童一人一人の様子を観察したり、よいところはほめたりして担任以外の大人との関係を築いていく。
- ・縦割り活動の大きな行事である「運動会」や「レインボー遠足」に対して教職員がねらいを共通理解し、取り組んでいく。
- ・休み時間や「レインボーそうじ」などの中での児童の様子などで気づいたことを教職員で共有していく。

忠岡町立忠岡中学校

中学校 国語 話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について、自分の考えを書く。

考えられる課題

- 無解答率が高く(23.7%)、記述問題に抵抗がある生徒が多い。
- 他者の発言を聞いたうえで自分の考えを文章にすることができていない。

正答率 27.1%
全国正答率 44.7%

全国と比べ、正答率に一番差のあった問題
(差 -17.6%)

これからの指導の方向性

- 記述に抵抗を感じる生徒を減らすために、感想を書いたり、自分の考えを文章でまとめる活動を意識的に行う。
- 自分勝手な考えにならないよう、他者の意見も聞いたうえで自分の考えを書くような活動を取り入れる。

課題が見られる設問

四

話し合いの一部の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件2 話し合いの一部の誰の発言と結び付くのが分かるように書くこと。

フィルターバブル現象

インターネットで検索したり閲覧したりした情報が、使用した通信機器などに記録され、格納されることで、その利用者や閲覧者の嗜好が機械的に考慮されるようになる。一方で、好きなと判断され、注目された情報は、注目されてしまう。このような情報の偏りが生じたり多様な意見に接しにくくなる状況を「フィルターバブル現象」といいます。

例えば、検索についての検索を多くしていると、検索に関する情報の偏りが機械的に表示されるようになります。

（文部科学省ウェブページより、一部改変）

（解説）

「インターネットで検索したり閲覧したりした情報が、使用した通信機器などに記録され、格納されることで、その利用者や閲覧者の嗜好が機械的に考慮されるようになる。一方で、好きなと判断され、注目された情報は、注目されてしまう。このような情報の偏りが生じたり多様な意見に接しにくくなる状況を「フィルターバブル現象」といいます。」

例えば、検索についての検索を多くしていると、検索に関する情報の偏りが機械的に表示されるようになります。

（山岡さん）

皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような情報がありますか。

（山岡さん）

私の国は、国々、インターネットで検索して本を買っているのですが、機械的に選ばれる本の表示が多くなっているように思っています。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

（山岡さん）

（解説）の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を買った。フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があるということです。では、国境を【フィルターバブル現象と本の選び方】にして話し合ってみませんか。

（山岡さん）

身近なテーマでいいと思います。私は、足のようにインターネットで本を買うことはいいのですが、皆さんはどうですか。

（山岡さん）

私は、この国、インターネットで検索したり閲覧したりした情報が、使用した通信機器などに記録され、格納されることで、その利用者や閲覧者の嗜好が機械的に考慮されるようになる。一方で、好きなと判断され、注目された情報は、注目されてしまう。このような情報の偏りが生じたり多様な意見に接しにくくなる状況を「フィルターバブル現象」といいます。

（山岡さん）

そうですね、国境を越えて見れば、検索したりする本がどんどん表示されているので、国境、それ以外の国の情報に接しているかという点があります。国境、国境を越えて見れば、検索したりする本がどんどん表示されているので、国境、それ以外の国の情報に接しているかという点があります。国境、国境を越えて見れば、検索したりする本がどんどん表示されているので、国境、それ以外の国の情報に接しているかという点があります。

（山岡さん）

私は、国境を越えて見れば、検索したりする本がどんどん表示されているので、国境、それ以外の国の情報に接しているかという点があります。国境、国境を越えて見れば、検索したりする本がどんどん表示されているので、国境、それ以外の国の情報に接しているかという点があります。

（山岡さん）

そうですね、国境を越えて見れば、検索したりする本がどんどん表示されているので、国境、それ以外の国の情報に接しているかという点があります。国境、国境を越えて見れば、検索したりする本がどんどん表示されているので、国境、それ以外の国の情報に接しているかという点があります。

（山岡さん）

そのように本を選ぶのは、国境を越えて見れば、検索したりする本がどんどん表示されているので、国境、それ以外の国の情報に接しているかという点があります。国境、国境を越えて見れば、検索したりする本がどんどん表示されているので、国境、それ以外の国の情報に接しているかという点があります。

（山岡さん）

フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考える必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選びたいと思いますか。

1 山岡さんたちは、国語の時間に、フィルターバブル現象の資料をもとに、グループで話題を決めて話し合っています。次のフィルターバブル現象の資料と話し合いの一部を読んで、あと問いに答えなさい。

中学校 国語 行書の特徴的な書き方について説明した文として適切なものを選択する。

考えられる成果

- 無解答率が低く(0.8%)、楷書と行書、それぞれの特徴を理解できている生徒が多い。

正答率 76.3%
全国正答率 75.6%

全国と比べ、正答率が
上回った問題
(差+0.7%)

これからの指導の方向性

- 書写の授業において、楷書・行書それぞれの特徴を理解させながら、作品を書かせる。
- 楷書と行書の字画の変化を楽しみながら、作品を書かせる。

成果が見られる設問

4

田中さんは、国語の時間に、テーマを決めて短歌を集め、友達に紹介するための資料を作っています。次は、田中さんの「ワートの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

三

田中さんは、短歌を紹介するための資料の中に、テーマである「月と風景」を行書で書きました。次の①から④までの部分の書き方について説明したものと最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選びなさい。

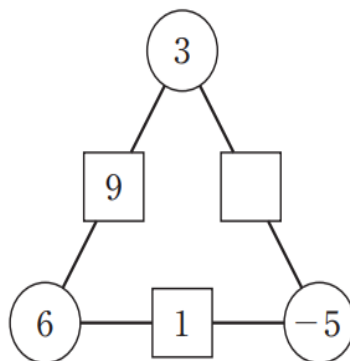


- 1 ①の部分は、楷書とは異なり点画を連続して書いている。
2 ②の部分は、楷書とは異なり点画を直線的に書いている。
3 ③の部分は、楷書と同様に終筆を止めて書いている。
4 ④の部分は、楷書と同様に点画を省略して書いている。

成果が見られる設問

6 □にはその□がかかっている 辺の両端たんの○に入れた整数の和が入ります。

(1) 下の図の□に入る整数を求めなさい。



考えられる成果

●数と式といった数学の基礎・基本が定着している。

正答率 90.6 %

無解答率 6.8 %

正答率が全国平均より高い。

大阪府: 89.3 %

全国: 90.2 %

これからの指導の方向性

- 基礎・基本的な計算式を身につけるために、小テストなどで、類似問題に触れながら繰り返し取り組んでいく。
- 正の数と負の数の計算問題においては、昨年度に引き続き、正答率が高い結果となっている。基本的な計算問題だけではなく、文章問題や説明する問題につなげることが必要である。

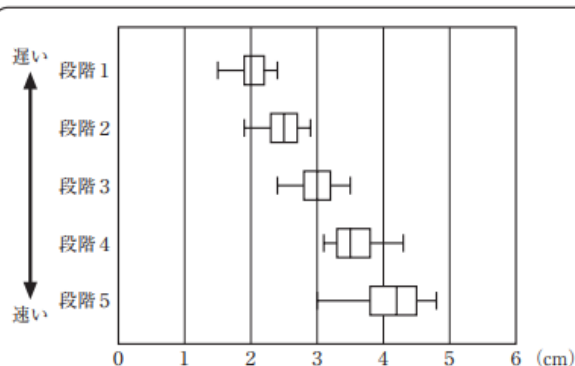
中学校 数学 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して、読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。

課題が見られる設問

7

(2) 咲希さんは、車型ロボットの速さを変えたときに、10 cm の位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、速さを段階1から段階5まで変えて、10 cm の位置から進んだ距離をそれぞれ20回ずつ調べ、データを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために箱ひげ図に表しました。

10 cm の位置から進んだ距離の分布



	10 cm の位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
段階2	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
段階3	2.4	2.8	3.0	3.2	3.5
段階4	3.1	3.3	3.5	3.8	4.3
段階5	3.0	3.8	4.2	4.5	4.8

考えられる課題

- 箱ひげ図を十分に理解していない。理由をつけて説明することができていない。

正答率 13.7% 無解答率 49.6%

全国と比べ、正答率に一番差のあった問題(差-12.2%)

これからの指導の方向性

- 四分位範囲を理解する上で、箱ひげ図を活用するなど、視覚的に考える必要がある。
- データ活用問題に触れる機会を設けるとともに、文章を読み取ったり、理由を説明する問題に取り組んでいく。

生徒アンケート

課題が見られる設問

(21) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)

考えられる課題

● 普段から勉強時間が30分より少ない生徒が多い。

3時間以上 全国	14.0% 9.2%	2時間以上3時間未満 全国	21.5% 22.5%
1時間以上2時間未満 全国	22.3% 32.6%	30分以上1時間未満 全国	14.0% 18.4%
30分より少ない 全国	15.7% 10.4%	全くしない 全国	12.4% 6.6%
		無回答 全国	0.0% 0.4%

これからの指導の方向性

● 普段から勉強に取り組んでいる時間が30分より少ない生徒が全国と比べて多い(忠岡中: 28.1%、全国: 17.0%)。逆に、普段から2時間以上勉強に取り組んでいる生徒は、全国を上回っている。(忠岡中: 35.5%、全国: 31.7%) 家庭学習定着に向け、「テスト勉強ここまでやるぞシート」などを活用し、学習習慣の定着を図っていく。また、進路学習を通じて、勉強をする意味を位置づけ、勉強時間が30分より少ない生徒を減らしていきたい。

生徒アンケート

成果が見られる設問

(29) 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

考えられる成果

- 論理的思考・表現力の向上。
- 班活動の充実。

発表していた	26.4%	どちらかといえば発表していた	45.5%
全国	22.2%	全国	42.6%
発表していなかった	4.1%	どちらかといえば発表していなかった	19.0%
全国	9.3%	全国	23.3%
発表する機会はなかった	4.1%	無回答	0.8%
全国	2.2%	全国	0.4%

これからの指導の方向性

- 全国比と比べても、肯定的回答の割合が高くなっている(忠岡中学校:71.9%、全国:64.8%)。学校全体として、授業内の話し合い活動や班活動が充実されたことにより、成果が表れていると考えられる。話し合い活動や班活動の設問の工夫などを行い、考えをより深めるために取り組んでいきたい。

生徒アンケート

成果が見られる設問

(33) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、
自分の考えを深めたり、広げたりすることができて
いますか。

考えられる成果

- 思考力・判断力の向上。
- 班活動の充実。

当てはまる 27.3%
全国 36.4%

どちらかといえば当てはまる 52.1%
全国 49.7%

当てはまらない 3.3%
全国 2.4%

どちらかといえば当てはまらない 13.2%
全国 9.8%

生徒の間で話し合う活動を行っていない 2.5%
全国 1.1%

無回答 1.7%
全国 0.6%

これからの指導の方向性

- 全国比と比べ、肯定的回答が下回っているが、この項目においては年々数値が上昇しており、学校としての取り組みが成果として表れてきていると考える（昨年度：74.8%、今年度：79.4%）。今後も授業中の話し合い活動や班活動を継続していくとともに、班活動で仲間づくりを進め、話し合い活動の活性化につなげたい。

生徒アンケート

成果が見られる設問

(13)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

考えられる成果

●いじめについての正しい認識を持っている。

当てはまる 81.0%
全国 77.5%

どちらかといえば当てはまる 16.5%
全国 18.2%

当てはまらない 0.0%
全国 0.9%

どちらかといえば当てはまらない 1.7%
全国 2.9%

無回答 0.8%
全国 0.5%

これからの指導の方向性

●肯定的回答が95%を超えており、学校として取り組んでいる「いじめについて考えよう週間」など活動が生徒自身にしっかり浸透していると考えられる。昨年度より肯定的回答が向上(昨年度:94.7%、今年度:97.5%)しており、いじめを許さない土壌が育ってきている。さらに仲間づくりを進め、いじめはダメという意識だけではなく、安心できる学習環境づくりにつなげていきたい。

生徒アンケート

成果が見られる設問

(14) 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。

考えられる成果

● 教職員との良好な関係を構築できている生徒が多い。

当てはまる 48.8%
全国 28.7%

どちらかといえば当てはまる 26.4%
全国 38.8%

当てはまらない 9.1%
全国 10.2%

どちらかといえば当てはまらない 14.9%
全国 21.9%

無回答 0.8%
全国 0.5%

これからの指導の方向性

● 全国と比べ、肯定的回答が大きく上回っている(忠岡中学校: 75.2%、全国: 67.5%)。教職員と生徒が良好な人間関係を構築できていると考えられる。学期始めの定期面談等で気になる生徒の様子が見られれば、教職員からその都度声かけを行うなど、生徒の困り感に寄り添った関わりを継続していく。